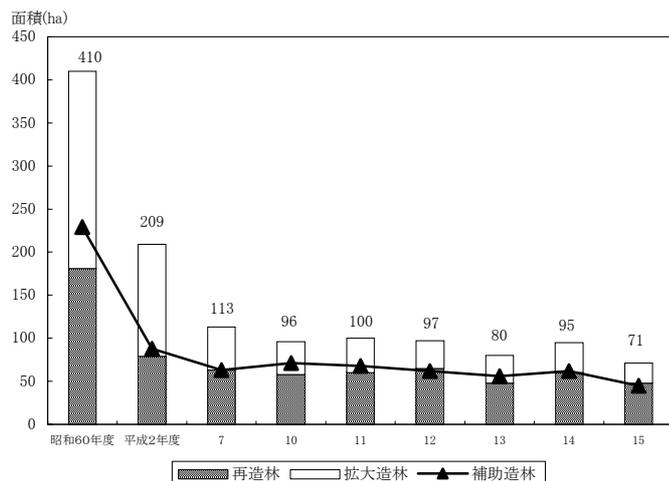


2. 森林の整備

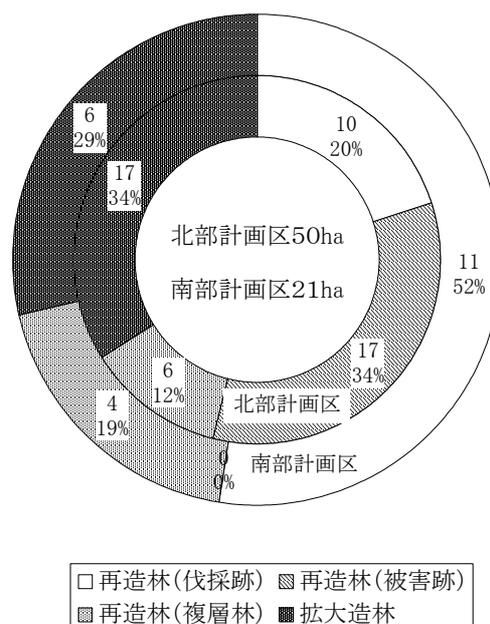
(1) 人工造林

— 対前年24haの減少 —

造林種別人工造林面積



地域別人工造林面積



本県の人工造林面積は、近年減少傾向で推移しており、平成15年度は前年度に比べ24ha減少して71haとなった。昭和60年度の410haと比較すると1/5以下となっている。この内補助造林は45haであり、前年度より17ha減少した。その結果人工造林面積に占める割合は63%となった。

造林種別内訳は、再造林が前年度より12ha減少して48ha、拡大造林も前年度より12ha減少して23haとなっている。

平成15年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区が前年度より16ha減少して50haとなったが、全体の70%を占めた。その内訳は、前年度と同様スギ非赤枯性溝腐病等の被害跡地造林を中心に再造林が33haと大半を占めている。一方、南部計画区は前年より8ha減少して21haとなった。前年度に比べ再造林が2ha減少の15ha、拡大造林は6ha減少の6haで、再造林が過半を占めた。

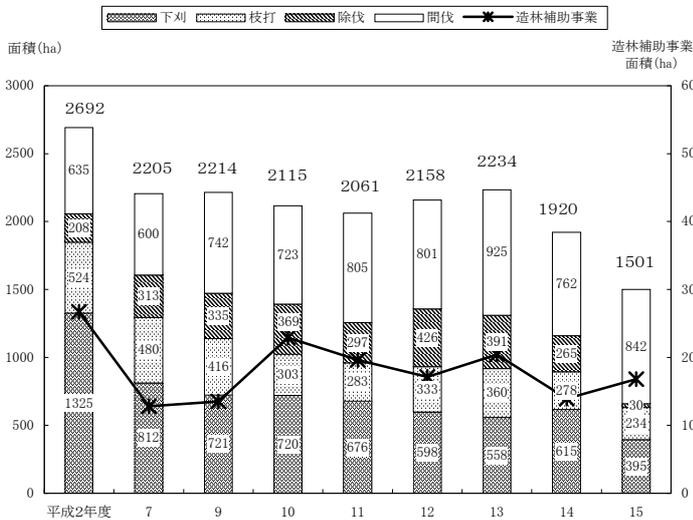
また、造林樹種別の面積構成はスギが42% (30ha)、ヒノキ48% (34ha)、マツ4% (3ha)、広葉樹7% (5ha) となり、前年度に比べスギが21ha、ヒノキが1ha減少し、ヒノキが半分近くを占めた。

昭和60年度 (スギ66%、ヒノキ31%、マツ2%) と比べると、近年はスギが減少し、ヒノキが増加している。

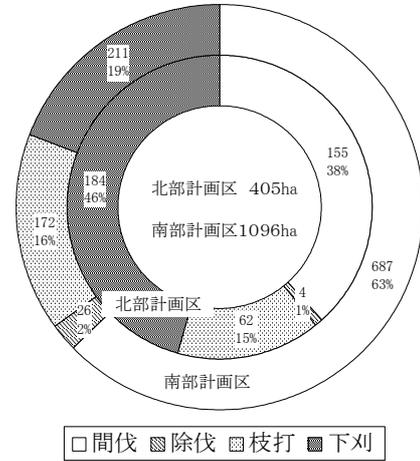
(2) 間伐・保育

— 間伐・保育実施面積が大幅減少 —

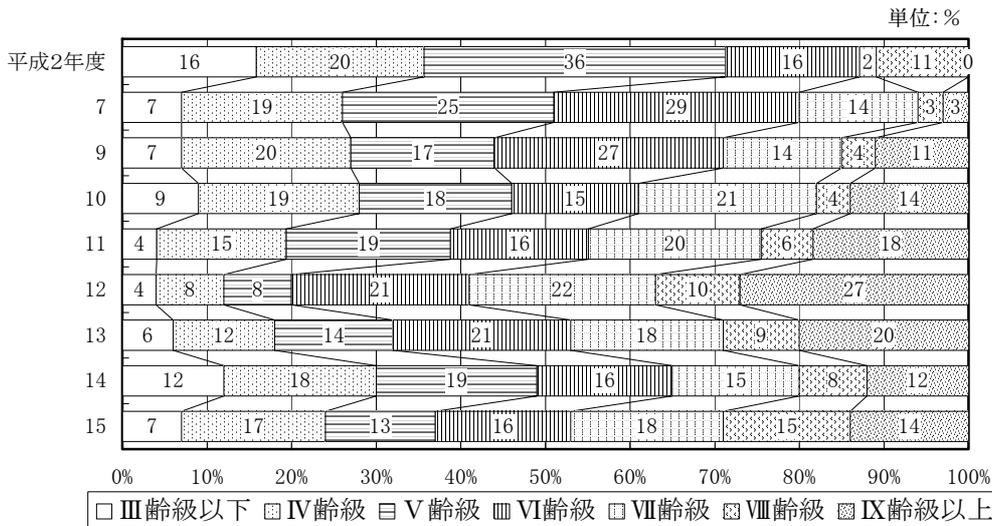
間伐・保育面積の推移



地域別間伐・保育面積



間伐の齢級構成の推移



本県の間伐及び保育の実施面積は、近年、全体としては2,100ha～2,200ha程度で推移していたが、平成15年度は1,501haと2年連続で2,000haを下回った。種類別には、下刈が減少し、間伐が増加傾向にあり、平成15年度は、下刈が前年度比64%、除伐が同11%と大きく減少し、枝打ちも同84%に減少し、間伐は対前年比110%と増加した。

平成15年度の地域別傾向としては、間伐・保育面積全体では南部が北部の約2.7倍となっており、南部に集中する傾向にある。その種類別内訳では、北部で下刈、枝打ちが61%を占めるのに対し、南部では除間伐が65%を占めている。

間伐実施面積を齢級別にみると、平成12年度まではVII齢級以上の割合が一貫して増加していたが、平成13年度からはIII～V齢級が増加し、VII齢級以上の割合は47%と前年より12ポイント増加した。